



三鷹ネットワーク大学

〒181-0013
東京都三鷹市下連雀3-24-3
三鷹駅前協同ビル3階
TEL：0422-40-0313
FAX：0422-40-0314
<http://www.mitaka-univ.org/>

開館時間 9:30～21:30
(日曜のみ 17:00 まで)

休館日 月・祝・年末年始

2015年10月発行
発行元：NPO法人三鷹ネットワーク推進機構
制作協力：三鷹 SOHO 倶楽部

「民学産公」の知的資源を活用し、
未来へ開く新しい扉。

10th Anniversary Issue



三鷹ネットワーク大学
10周年記念誌

2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015



三鷹ネットワーク大学 開設10周年記念 特設サイト
<http://www.mitaka-univ.org/10th/>



特設サイトには、本誌の内容に加えて
フォトギャラリーや詳しい年表なども
掲載しています。



古紙パルプ配合率100%再生紙を使用
この製品は、古紙パルプ配合率100%の
再生紙を使用しています。このマークは、
3R活動推進フォーラムが定めた表示方
法に則って自主的に表示しています。

三鷹ネットワーク大学について

設立理念

三鷹市は、市の基本構想において、「平和」「人権」「自治」を基調とした「人間のあすへのまち」の実現をめざしています。市民一人ひとりがお互いに尊重しあい、自らのまちをつくっていく中で、いきいきと暮らし、自己実現ができる社会をめざしていきたいと考えます。

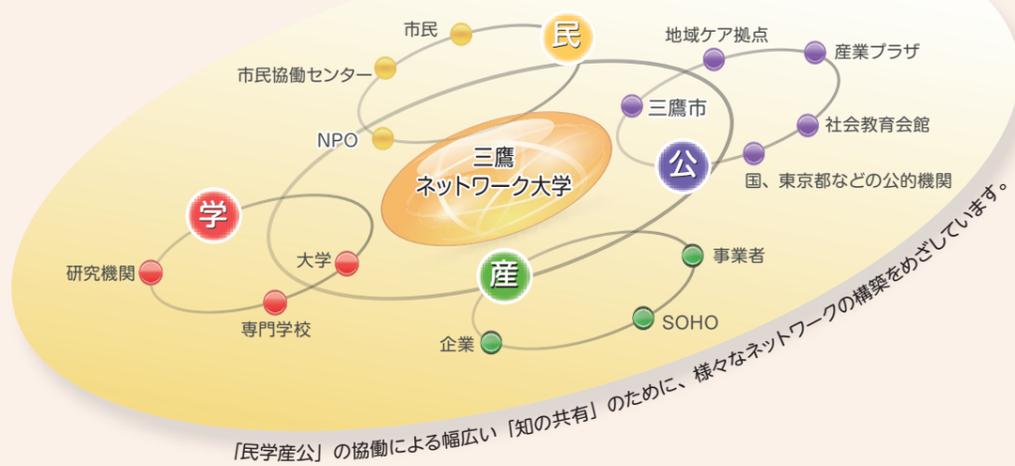
この基本構想の理念の実現に向けて、三鷹ネットワーク大学を設立し、「民学産公」の持つ知的資源を最大限に活用し、つなげていくことで、三鷹の未来に向けた、まちづくりの新しい扉を開いていきます。

目的

教育・研究機関の地域への開放と、地域社会における知的ニーズを融合し、民学産公の協働による新しい形の「地域の大学」をめざします。

市民が地域で活躍するための知識や手法の取得を支援することで、地域の人財をさらに生み育て、協働のまちづくりを進める中で、より豊かで安心できる市民生活の実現をめざします。

三鷹ネットワーク大学の展開イメージ



三鷹ネットワーク大学の機能と事業

三鷹ネットワーク大学は、「教育・学習機能」「研究・開発機能」「窓口・ネットワーク機能」の3つの機能を持ち、それぞれの機能ごとに10の事業を展開します。

教育・学習機能

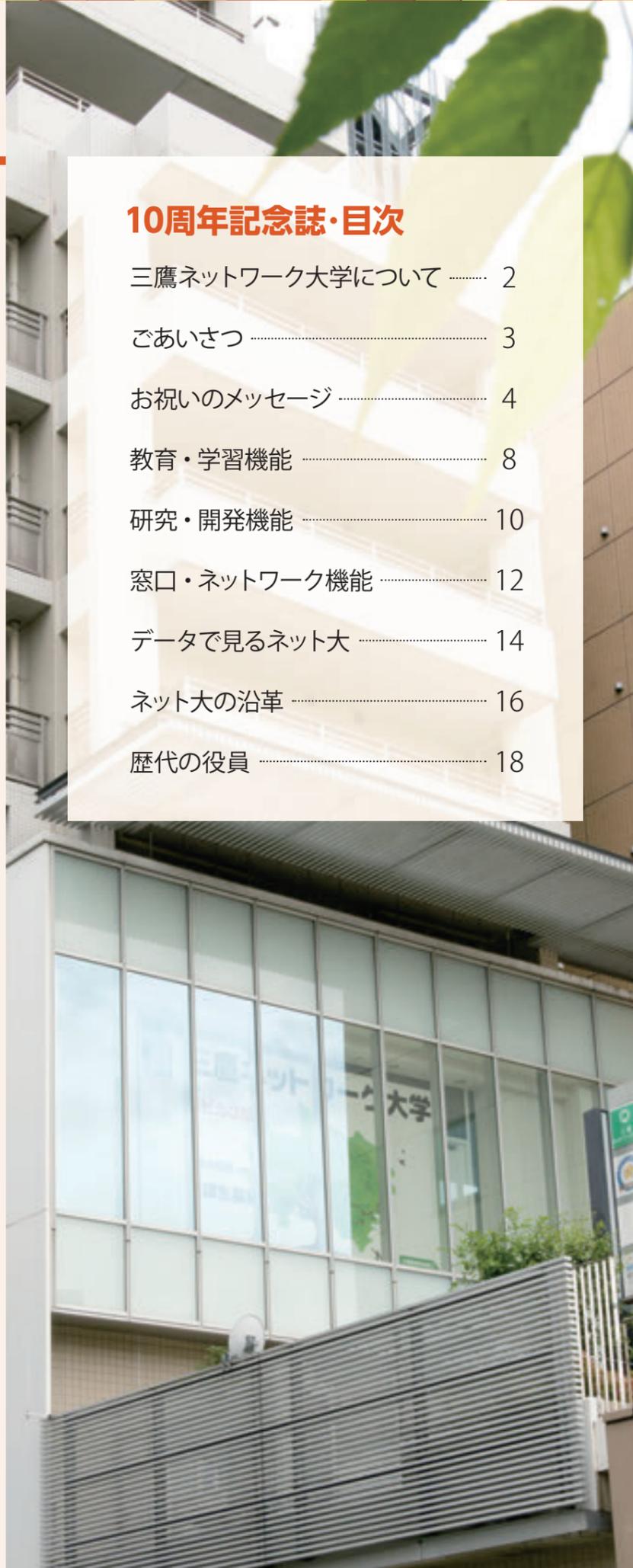
- 大学・大学院レベルの講義内容を、地域社会に提供する「コミュニティ・カレッジ」事業
- 各教育・研究機関の正規の講義をサテライトで行うサテライト・キャンパス事業
- 各教育・研究機関と連携し、大学院レベルの講義を提供する社会人大学院事業
- 企業や自治体のニーズに合った研修を提供する企業・自治体研修事業

研究・開発機能

- 産業の活性化や新規雇用創出に向けた実証実験実施などの「民学産公」協働研究事業
- 起業・就業支援やNPO活動支援などを行うビジネス・インキュベーター事業
- 新たな政策課題に関する調査・研究から政策提言を行う「まちづくり総合研究所」事業

窓口・ネットワーク機能

- 市民の知的ニーズに応え、地域に必要な人財を育成するためのキャリアデザイン支援事業
- 民学産公のマッチングのために研究会や勉強会などを開催する「協働サロン」事業
- 在宅での受講など多様な学びの形態を支援するeラーニング支援事業



10周年記念誌・目次

三鷹ネットワーク大学について	2
ごあいさつ	3
お祝いのメッセージ	4
教育・学習機能	8
研究・開発機能	10
窓口・ネットワーク機能	12
データで見るネット大	14
ネット大の沿革	16
歴代の役員	18

ごあいさつ



このたび、三鷹ネットワーク大学は、開設10周年を迎えることができました。これもご参加いただいた19の教育・研究機関の皆様や60を超える企業の皆様、そして三鷹市民の皆様と清原市長を代表とする三鷹市との、「民学産公」の連携の成果であると言えます。



清成忠男
特定非営利活動法人
三鷹ネットワーク推進機構
理事長

三鷹ネットワーク大学が開設された、平成17年(2005年)当時は、こうした取り組みは他に例がなく、これまでトップランナーとして道を切り拓いてきました。現在では、大学と地方自治体が連携して、地域を志向した教育・研究・社会貢献を進めることが、国からも求められています。さらには、地域の自治体・企業やNPO、民間団体等が協働し、地域産業を自ら生み出す人財など地域を担う人財育成を推進するなど、「地方創生」に位置付けられた事業が全国的に進められています。

こうした自治体間、あるいは大学間の競争が激しくなっていく中で、三鷹ネットワーク大学も新しい挑戦を続けていかなければなりません。例えば、今後到来する超高齢社会における医療と介護のあり方や新しい「産業化」の研究、いろいろなモノにセンサーをつけて、インターネットに繋げるIoT(Internet of Things)によってもたらされる社会変革の研究など、新しい分野での取り組みが必要になってくる、と考えています。

そのためにも、三鷹ネットワーク大学を中心とする「民学産公」のそれぞれの専門的な「知」の連携を図り、相互に補完していく必要があります。こうした様々な取り組みを通じて、三鷹市の新しいまちづくりのテストケースとして成果を出していきたい、と考えています。次の10年に向けて、こうした取り組みへのご理解、ご協力をお願いするとともに、さらに多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

お祝いのメッセージ

平成 17 (2005) 年 10 月に活動を開始した「三鷹ネットワーク大学 (以下ネット大)」は今年、開設 10 周年を迎えています。これまでネット大の活動をお支えいただき、ご参画いただいた市民の皆さま、清成忠男理事長はじめ理事の皆さま、賛助会員の皆さま、歴代常務理事はじめ事務局の皆さまとともに、10 年の歩みを心から祝福し、一緒に未来を展望したいと思います。



清原慶子
三鷹市長

ネット大は、「民 (市民)」「学 (大学研究機関)」「産 (産業界)」「公 (市役所等の公共機関)」「官 (国の機関)」がつながり、それぞれが持つ知的資源を最大限に活かして協働し、三鷹市から全国に向けて、そして、未来に向けて、地域課題の解決を含む「まちづくりの新しい扉」を開く「大学研究機関との協働の新しいカタチ」を示してきました。

ネット大では、会員である大学研究機関とご一緒に、多様で多彩な講座を開講するとともに、まちづくり総合研究所での調査研究活動、国や都の公募事業、事業者や研究機関と連携した実証実験など、さまざまな研究開発事業にも取り組んできました。

たとえば、国立天文台による「アストロノミー・パパ」や「太宰を読む百夜百冊」「SOHO ベンチャーカレッジ」のように長期継続講座の事例が生まれました。また、分野を超えた連携のなかから誕生した「みたか太陽系ウォーク」という市内各所のスタンプラリーという参加型のイベントでは、協力事業所や参加者が年々増加し、市内に科学文化による活気をもたらしています。

この 10 年間は、関係者がまさに大学研究機関と市民や各種団体と市とが、協働の充実に向けて創意工夫を重ねてきています。地域人財養成についても、山本有三記念館、太宰治文学サロンなどの文化施設のガイドボランティアや星のソムリエ、科学プロデューサーの養成講座、教育人財や福祉分野のボランティア育成などの成果を挙げています。さらに、人財と活躍の場とのマッチングにも力を注いでいます。

ネット大の事業は、参加者・関係者による知識や情報の共有化を基礎にして、出会いが新しいアイデアをまちづくりに活かしていく過程を顕在化させています。多様な皆さまが、多層的多層的なコミュニケーションを進めていく機会を提供することで、課題発見と課題解決が進み、三鷹市の元気の原動力となっています。

ネット大がこれからもこれまでの 10 年間と同様に、大学研究機関を中心として、民学産公の協働を進め、現代の課題解決をはかるとともに、未来をきりひろくために、さらなる学習、研究開発と交流の場となることを期待しています。

三鷹ネットワーク大学 10 周年おめでとうございます。清成忠男理事長のリーダーシップの下に着実な歩みを続けてこられたことに敬意を表します。私も微力ではありましたが、設立当初及びその後の数年間、国際基督教大学学長として三鷹ネットワーク大学の活動に参加させていただいたことをなつかしく思い出しております。



鈴木典比古
国際教養大学
学長

今後の日本では、高等教育機関の地域連携が益々重要になります。これは少子化による学生減少が予想される中で、大学の生き残り戦略的意味もありますが、それよりも ICT 技術を使った大学間協力・連携が進む可能性が大きくなっていることがあげられます。

21 世紀の中頃の大学の在り方、大学コンソーシアムの在り方について、三鷹ネットワーク大学がモデルになってくださることを願います。

全国に先駆けて「民学産公」の協働によるユニークな事業展開を続けてこられた三鷹ネットワーク大学の 10 年の歩みに心より敬意を表しお祝い申し上げます。



松田博青
杏林学園
理事長・学園長

本学は平成 25 年度にそれまでの地域交流活動が認められて文部科学省「地 (知) の拠点整備事業」に採択されました。それまでの三鷹ネットワーク大学とのかかわりは医学部などの関係者が時折講演を行う程度でしたが、採択をきっかけに 26 年度は 20 件の公開講演会 (受講者 1,471 人) を共同開催させていただき、27 年度も同程度の共催の講演会を予定しています。平成 28 年 4 月には三鷹市下連雀に井の頭キャンパスを設置して八王子キャンパス (保健学部・総合政策学部・外国語学部・保健学研究科・国際協力研究科) を移転し、教育・研究機能を三鷹に集約します。社会貢献は大学の使命であり、移転を契機に本学の人文・社会科学系の教育・研究資源も活用して、様々な分野でこれまで以上に連携させていただきたいと願っています。

私は、三鷹ネットワーク大学の創設から関わらせて頂き、「民学産公」の協働の可能性を実感しています。

ルーテル学院大学は、深い人間理解を基盤に置き、社会福祉、臨床心理の専門職の養成を重要な使命とし、児童、高齢、障害、母子等の福祉機関・施設、医療・教育機関、行政、社会福祉協議会等で働く人材を送り出しています。その教育能力と知識、経験を三鷹市へ還元し、貢献することは、本大学が目指すことであり、ネットワーク大学はその場を提供してください



市川一宏
ルーテル学院大学
学事顧問

ました。メンバーの大学がコラボして地域ケアの体系的な学びと実践を市民に提供したプログラム等、先駆的な取り組みもありました。その結果、たくさんの方々との信頼が生まれ、ネットワークが広がりました。これは、本学にとって大きな収穫でした。

本大学の特性を理解してくださり、様々な機会を提供し、支援して下さった清成忠男理事長、副理事長で杏林学園理事長松田博青先生、国際基督教大学前学長鈴木典比古先生、現学長日比谷潤子先生、そして市として積極的に「民学産公」の協働を進めて下さった清原慶子現市長、河村孝前副市長に心から感謝します。

ルーテル学院大学は、今後も積極的に、三鷹ネットワーク大学の働きに加わってまいります。

三鷹ネットワーク大学推進機構は、2015 年 10 月に 10 周年を迎えます。この間、本邦では唯一の「民学産公」の協働による「地域の大学」として、教育・研究機関を地域に開放し、地域社会における知的ニーズを融合してきたことに、心より敬意を表します。



日比谷潤子
国際基督教大学
学長

1953 年に三鷹市大沢に開学した国際基督教大学 (ICU) は、各種講座やイベントを通して、このネットワーク大学の活動に参画してまいりました。加えて、機構には本学学生がさまざまな形でお世話になっており、深く感謝申し上げます。今後も、地域の人々がそこに軸足を置き、地域の特性を十分に活かしつつ、世界に向かって開かれた多彩な活動を展開する拠点として、ますます発展していくことをお祈りしております。

お祝いのメッセージ

三鷹ネットワーク大学推進機構開設 10 周年、おめでとうございます。

国立天文台では、星のソムリエ養成講座、アストロノミー・パブ、みたか太陽系ウォークスタンプラリーなどを、三鷹ネットワーク大学と一緒にやらせていただいております。このような取り組みにより、三鷹市民をはじめとして多くの方々に、国立天文台の活動を知っていただける機会が増えました。

この 10 年間で、国立天文台は大きく地域に開かれた研究所になったと自負しております。宇宙に関する最新の研究成果を、三鷹ネットワーク大学を通して地域の皆さんに知っていただくことは、私たちにとっては大きな喜びであり、また国立天文台の存在意義のひとつであるとも思っております。今後とも、三鷹ネットワーク大学とともに、地域の皆さんとの連携をさらに強めていきたいと思っております。



林 正彦
自然科学研究機構
国立天文台
台長

の設立や経営などについて私のところに相談にいらっしやいます。

三鷹ネットワーク大学を SOHO 学びの拠点として、今後とも大いに期待しています。

三鷹ネットワーク大学 10 周年おめでとうございます。

2013 年 3 月、経験も知識もないまま「おでん屋を開きたい」と訪れた三鷹商工会で「三鷹ネットワーク大学」を紹介していただき、前田先生にお会いすることができました。その日は「三鷹身の丈起業塾 春期集中講座」

開講 2 日前で、さっそく受講を申し込みました。

それまでは事業計画という言葉さえ知りませんでしたが、2 日間の講座で何とか計画を立て、発表し、前田先生から卒業記念品までいただきました。また、国の補助金を申請するように励まされ、難しい申請書類と一緒に起業塾を受講した受講生に教えていただきながら書きました。

人脈のない私に、見習い先として前田先生が紹介してくださった食堂の店長さんからは、お料理や店づくりのアイデアと、駅から 1 分という物件を紹介していただきました。

定年後は地域の皆さんに身近に感じてもらえて、くつろげるおでん屋を開きたいという願いは、前田先生と身の丈起業塾との出会いで一気に実現へ動き出しました。



石原郁子
おでん屋 えがお
店主



「三鷹身の丈起業塾」で夢が実現した石原さんのお店

10 周年おめでとうございます。

みたか観光ガイド協会は、三鷹市で市民活動している皆さんが「三鷹を案内するガイドを育てよう」とガイド養成講座を開き、活動を始めたのが 1999 年 6 月でした。講座に参加したメンバーは受講後、知ったことを知らせよう、と「太宰治ゆかりの場所ガイド」をはじめました。活動するなかで「太宰治」と「太宰治の生きたまち三鷹」をもっと知りたいと思っていた時、タイミングよく「太宰治を読む百夜百冊」の講座が開講したのです。太宰治没後 60 年の 2008 年 3 月のことでした。私たちの仲間は、この機会に、積極的に参加して、大いに知識を吸収しガイドの参考にしたものでした。この講座は、残念ながら 2013 年 5 月で一旦閉講しましたが、5 年と 2 か月の長丁場となり、こんなビッグな講座はもうないだろうと思いました。講座の担当者に感謝しています。

その後、2013 年と 2014 年に開講された「国立天文台ガイドボランティア養成講座」を受講していたボランティアの皆さんに、これまでのガイドの経験から学んだ「ガイドの心得」等を話す講師をさせていただきました。ボランティアの難しさや楽しさを共有することができて、とても楽しい講座でした。

このような講座を開講してきたネットワーク大学には、これからも市民からの発想を生かし、三鷹のまちづくりに貢献されることを期待します。



小谷野芳文
みたか観光ガイド協会
代表

「10 年ひと昔」と言いますが三鷹ネットワーク大学が創設された 10 年前に、三鷹市と三鷹市民の皆さんそして国立天文台の本格的な協力関係がスタートしました。創設の年の 11 月からスタートした毎月第三土曜日開催の「アストロノミー・パブ」は、回を重ねて今年の 9 月で 109 回となりました。日本で最も成功した科学コミュニケーションの場であるばかりか、このパブに集う市民や行政関係者の皆さんが「国立天文台のあるまち三鷹」をさまざまなアプローチで活性化されてきました。

星空案内人「星のソムリエ・みたか」の養成とその活動機会の創出、三鷹の森科学文化祭「みたか太陽系ウォーク」と東京国際科学フェスティバルの定着、国の特区認定を受けての「宇宙映像利用による科学文化形成」事業、さらには波及効果として三鷹市星と森と絵本の家の開設など枚挙にいとまがありません。これらの成果は国の成功モデルとして科学技術白書 2011 年度版にも大きく取り上げられています。今後はさらに三鷹市民の皆さんが天文・宇宙を始めとする自然科学や科学技術、そして科学映像等に主体的に関われるよう、三鷹ネットワーク大学を中心とした地域の科学文化形成に、国立天文台も今まで以上に協力していきたいと考えています。

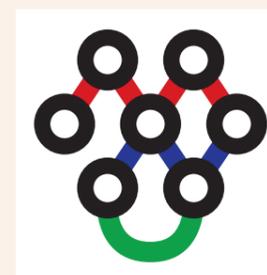


縣 秀彦
自然科学研究機構
国立天文台
准教授

開設 5 周年記念事業「三鷹ネットワーク大学シンボルマーク公募」(平成 22 年) 応募総数 280 点から選ばれたシンボルマーク

最優秀賞を受賞した浅田真理さん(映像クリエイター・デザイナー)の作品解説

三鷹ネットワーク大学の頭文字、MNU という文字を、人と人、ピア*とピアがつながってネットワークを形作っていくイメージでデザインしました。それぞれの円が人やピアを象徴しており、それをつなぐものが三鷹ネットワーク大学という訳です。赤、青、緑の色は、「教育・学習」「研究・開発」「窓口・ネットワーク」という異なった分野の人たちがつなぎ合っ



※ピア：開口部(窓・戸・門など)の柱

多くの人々に高度な学びの機会を提供する ネット大の多彩な講座群

民学産公の協働により三鷹ネットワーク大学の正会員・賛助会員である教育・研究機関、企業、NPO 等から講師を招き、地域ケア、協働のまちづくり、ビジネス、文化・教養、特別セミナーの5区分で講座を多数開催。幅広い世代の方々が受講されています。

教育・学習機能として、大学・大学院レベルの講義内容を、地域社会に提供する「コミュニティ・カレッジ」事業。各教育・研究機関の正規の講義を三鷹駅前の拠点サテライトキャンパスとして行うことで市民の受講を促すサテライト・キャンパス事業。各教育・研究機関と連携し、大学院レベルの講義を提供する社会人大学院事業。企業や自治体の研修を実施するなど、ニーズに合った研修を提供する企業・自治体研修事業を展開しています。

連携大学の学長による連続講座をメインに ネットワークを活かしてスタート

三鷹ネットワーク大学で最初に開講したルーテル学院大学企画講座「比較文化論～おと・ことば・いのり～」を皮切りに、連携する14の大学・研究機関（開設当初）の長による学長連続講座「知的創造空間としての地域社会」を開催しました。また、アジア・アフリカ語圏のことばにふれるアジア・アフリカ文化財団による「アジア・アフリカのことば体験講座」。亜細亜大学によるアジアのビジネス情勢について学ぶアジアビジネス関連講座。杏林大学・地（知）の拠点整備事業との連携による杏林大学公開講演会。平和・安全・共生に関して探究する国際基督教大学による「平和・安全・共生」の地域社会をめざして。家族や友人のために、学校でのボランティア活動のために、地域で星を観る会を開くなど、宇宙について学ぶだけではなく、学んだ知識を他の人に語れるようにするための連続講座、国立天文台の協力による「星空案内のための天文講座」。ホテルの発光原理とその応用について学ぶ電気通信大学による「ホテルの光を科学する」。ICT社会による高齢者の生活の変容について考

察する東京工科大学による「インターネットと高齢者」。難解な数学について、楽しく学ぶ東京女子大学による「数学はこんなに面白い!」。絹から合成繊維に続く、繊維産業の歴史を学ぶ東京農工大学協力による「明治を紡いだ奇跡の糸車「坊さん発明家」の挑戦」。介護への理解と質の向上を目指す、日商簿記三鷹福祉専門学校による「地域で暮らす高齢者の自立へ向けて」。ペットと共に幸せに生きる方法について学ぶ日本獣医生命科学大学による「ペットや伴侶動物と共に生きる」。子どもの発達段階に合わせた楽しみ方と育児のヒントを学ぶ日本女子体育大学による「子育てを楽しもう」。アニメ・マンガ・映画・小説などのコンテンツを通じて都市の変容や観光地理学的にコンテンツと地域の関係を学ぶ法政大学による「コンテンツツーリズム入門」。サテライト講座として実施した明治大学の「太宰治考」。協働によるまちづくりのあり方などを学ぶ立教大学による「協働のまちづ



初期の講座案内 (2005 年度秋学期)



これまでに開催してきた講座のチラシの一部。ジャンルを問わず多彩な講座が開催されている



三鷹市縁の作家、太宰治に関連する講座は、これまでも様々な企画で行われており講座の中でも人気がある。写真は「太宰を読む百夜百冊」の講座の様子



三鷹の地について多角的に学ぶ講座では、フィールドワークも行われている。例えば、「三鷹「通」養成講座」では、国際基督教大学内にある泰山荘を訪れている

くり入門」。三鷹市縁の作家、太宰治の没後 60 年(2008 年)、生誕 100 年 (2009 年) を記念して開催したシリーズ「太宰を読む百夜百冊」など、様々な講座を開催しています。

地域と連携した特色のある講座の開催や 三鷹の人財育成にも貢献

NPO やその他団体との連携による、科学講座やシニアライフの楽しみ方などの講座、三鷹の地について多角的に学ぶ講座、子どもの学習意欲を伸ばすためのコーチング講座、干支を主とした動物にまつわる講座なども多数開催しています。三鷹ネットワーク大学では、こうした講座を受講する前に受講者登録をさせていただきますが、その人数も本年 8 月で 9,000 人を超えました。

その他、「星空案内のための天文講座」をはじめ、「太

宰治文学サロンボランティア養成講座」「三鷹市山本有三記念館ボランティア養成講座」「国立天文台ガイドボランティア養成講座」など、地域で活躍する人財を育む養成講座を開催するとともに、その活躍の場とのマッチングについても努めています。

また、社会人大学院事業として、ルーテル学院大学大学院の「高齢者福祉研究」を開催したほか、企業・自治体研修事業として、三鷹市総務部職員課から、「チャレンジ選択研修」と「新任主任研修」、「公益法人等合同研修」を受託し、既存の研修に厚みを加えるため「三鷹ならではの」の分野について、三鷹ネットワーク大学が関連する大学等の教育・研究機関、賛助会員、その他の人脈を駆使した企画を提供しています。

今後とも、各連携機関の特性や専門性等の知的資源を活かした多様な講座を展開してまいります。



ネット大では市民向けの講座だけではなく、自治体向けの研修も開催されている

民学産公の連携や地域を核にした取組みで ビジネスや政策を支援

地域における産業の活性化や新事業創出に向けた実証実験など協働の手法で研究・開発への取組みを支援。起業家向けセミナーの開催、コミュニティ、ビジネス、NPO 活動等についても支援しています。

研究・開発機能として、産業の活性化や新規雇用創出に向けた実証実験実施などの「民学産公」協働研究事業、起業・就業支援やNPO 活動支援などを行うビジネス・インキュベーター事業、新たな政策課題に関する調査・研究から政策提言を行う「まちづくり総合研究所」事業を展開しています。

民学産公の連携による知的資源を活用

「民学産公」協働研究事業は、民学産公の連携による知的資源を活用した新しい技術やシステム、高付加価値製品の開発による地域に根差した産業の支援・創出に寄与し、研究結果が社会・地域に貢献することで市民生活が豊かになることを目的として実施されています。

地域産業の活性化や新事業創出に向けた実証実験、先行的モデル事業の実施、新事業、新製品、新サービス、新システムなどの開発や調査・研究費などを、「民学産公」の協働の手法によって、幅広く支援しています。本事業への参加資格は、当機構の正会員又は賛助会員であることとしており、対象経費総額の2分の1以内、最大で50万円の支援経費を支出することができます。

例年6月に開催される審査会で審査の上、採択されると、9月下旬の中間報告会及び3月上旬の成果報告会において、報告をいただくとともに、会員間の交流を図る会員懇談会も実施しています。

平成18年度から26年度までの9年間で、のべ82団体が「民学産公」協働研究事業に参加しました。

起業を「知」の面からソフト的にサポート

ビジネス・インキュベーター事業は、起業支援講座の開催や無料起業相談などに取り組んでいます。

起業支援講座は、「三鷹身の丈起業塾～SOHOベンチャーカレッジ」を軸に講座を開催しています。毎週1回、全15回で起業の理念や実務的知識を学び、最終的にはワークショップを経てビジネスプランを作成する講座です。平成15年4月に(株)まちづくり三鷹と三鷹ネットワーク大学の前身である「あすのまち・三鷹」推進協議会との共催で第1期を開講以来、1年に2期のペースで開催してきました。平成17年10月からは三鷹ネットワーク大学開設にともない移管され、平成27年7月現在、第23期まで開講しており、修了生は300人以上になり

「民学産公」協働研究事業の例

(左) (有) そーほっとによる「東京セブレ」は、福祉作業所で作られている焼き菓子で、みたかのおみやげブランド「TAKA-1」にも認定されている

(右) 横河電機(株)による「ソーラープラント」は、太陽光発電を用いた街路灯で、根元は人工植物が配されている



起業支援講座のひとつ「誰でも出来る! 企業入門」では、受講生同士のビジネスプランをディスカッションするワークショップが行われた



三鷹まちづくり総合研究所では、様々な専門家を交えて、地域課題を解決するための調査・研究・提言が行われている

ました。最近では、講義後には講師と受講者との意見交換会や懇親会の時間を設け、起業に対する熱意や悩みを共有することで、参加者の満足度が高まっています。

平成22年度・23年度には、(株)まちづくり三鷹とコンソーシアムを組み、内閣府の地域社会雇用創造事業の採択を受けた「みたか身の丈起業塾プロジェクト」を5回実施しました。

「SOHOベンチャーカレッジ」塾長の前田隆正理事が平成19年4月から行っている「無料起業相談」では、起業を目指す多くの人が相談に来ています。

三鷹のまちづくりを知的資源を活用して 総合的にサポート

「まちづくり総合研究所」事業は、市の新たな政策課題に関する調査・研究から政策提言を行うために、平成

21年7月に三鷹市と機構との間で協定を締結し、新たに「三鷹まちづくり総合研究所」を共同設置しました。研究所の所長には三鷹市長が就き、運営は三鷹ネットワーク大学で行い、

- ①市の総合的なまちづくりに資する調査研究に関すること
 - ②市の基本構想及び基本計画等に関すること
 - ③新たに検討が必要となった政策課題に関すること
 - ④その他、まちづくりの課題に関すること
- を掲げ、調査、研究及び提言を行う機関として設置されています。

また、三鷹市における教育・子育て支援のまちづくりに関する調査研究、提言を行うとともに、職員の政策形成能力の向上と三鷹らしい教育・子育て支援のあり方を理解し実践するための人材育成を図るため、平成22年6月に三鷹市、三鷹市教育委員会及び機構の三者で協定を締結し、「三鷹教育・子育て研究所」も設置されました。

「まちづくり総合研究所」事業で行われた主な取り組み

三鷹まちづくり総合研究所	第4次基本計画と市民参加のあり方に関する研究会(平成21年度)
	ユビキタス・コミュニティ有識者会議(平成21年度)
	「SOHO CITY みたか」構想の見直しと推進研究会(平成21年度)
	サステナブル都市三鷹研究会(平成23年度)
	コミュニティ創生研究会(平成23年度)
	オープンソース・ソフトウェアを活用した地域活性化に向けた研究会(平成24年度・25年度)
	次世代まちづくり人財養成塾(平成24年度～)
	持続可能な都市経営と基本計画改定等の将来課題に関する研究会(平成25年度・26年度)
三鷹教育・子育て研究所	三鷹市教育ビジョンの見直しに関する研究会(平成22年度)
	コミュニティ・スクール研究会(平成24年度)

“人財”の育成から民学産公のマッチングまで 様々なニーズを満たす“場”の提供

多様な学び方、働き方を考える講座企画等を通じ、キャリアデザインを支援。民学産公の新たな出会いやマッチングのための研究会の開催や専門家と市民が交流できるサロンなども開催。イベント事業として「三鷹の森 科学文化祭」にも取り組んでいます。

窓口・ネットワーク機能として、市民の知的ニーズに応え、地域に必要な人財を育成するためのキャリアデザイン支援事業、民学産公のマッチングのために、研究会や勉強会などを開催する「協働サロン」事業、在宅での受講など、多様な学びの形態を支援するeラーニング支援事業を展開しています。

地域の“人財”を育成し キャリアデザインを支援する

キャリアデザイン支援事業は、教育・研究機関との連携の中から、地域に必要な人財を育成するための講座として、「合同学校説明会」「ICT三鷹セミナー」「みたか団塊交流会」「キャリア・カウンセリング」など、学生からシニアを対象とした様々な講座を実施しました。

平成20年度から22年度には、東京都の学校支援地域支援本部事業を受託し、三鷹市教育委員会と連携しながら市内の中学校7校、小学校15校の各校で推進しているコミュニティスクール事業、アントレプレナー教育事業について支援を行いました。

平成19年から現在まで続いている「キャリア・カウンセリング」は、キャリアデザインに関する講義とカウンセラーによる個別カウンセリングを受けられるため、人気の講座となっています。

平成20年度から25年度には、それまでは学生主体で実施されてきた「インディーズアニメフェスタ」の開催支援を行い、アニメーションに係る様々な才能の発掘を目的として、クリエイター作品の発表の場を提供しました。

中でも「みたか教師力養成講座」は、実践的指導力や柔軟な対応力等をもった熱意ある三鷹市にふさわしい教員を育成するために、三鷹市教育委員会と連携した

講座で、平成18年度に始まり、現在も開催しています。講師は、学校教育に関して実践的に学べるように、市内の小・中学校現場で実際に教育に携わっている現役の校長・副校長・教育実践に優れている教諭や、教育委員会で教員の研修にあたっているスタッフ等で構成されています。

内容としては、「基礎コース」「実践コース」の2コースが設けられています。「基礎コース」は、教職に興味を持つ大学1・2年生を主な対象としており、小・中学校の教員としての心構えや仕事の内容を学びます。「実践コース」は、大学3年生以上で東京都の教員採用選考合格を目指す人を対象として、「基礎コース」の内容に加えて、教員になってから役立つ課題解決のための考え方を鍛える講義や論文指導、面接指導も行います。

両コース共に、理論だけではなく、特別教育実習も設けられており、小・中学校の教育現場での実習を通して、教員として必要な実践的指導力や柔軟な対応力を身に付けていくことができます。

このほか、三鷹市立小・中学校教員として必要な授業力や専門的な知識・技術を向上することを目的として開設された「教師力錬成講座」、学校教育の現場に携わる保護者や地域住民を対象に、学校支援者の現状を伝え、学校や児童・生徒との関わり方やその心構えなどについて



「まちなかサイエンスカフェ」では、受講者が星座早見盤を動かしながら講義が行われた



「みたか教師力養成講座」では、教員を目指す大学生等が深く現場を知る機会を提供している



「アストロノミー・パブ」では、トークタイムの後に立食スタイルのパブタイムがあり人気を博している

て学ぶことも目的とした「学校支援者養成講座」も行っています。

「民学産公」の協働を実現するために 様々な交流の機会を創出

「協働サロン」事業は、市民、学術、産業界、自治体それぞれを表す「民学産公」の、新たな出会いやマッチングのための研究会の開催や、専門家と市民が交流できるサロンなどを実施しています。

平成17年の開設当初から現在まで続く人気講座として、国立天文台が企画協力している「アストロノミー・パブ」があります。一般的な講義・講演会スタイルではなく、前半はアルコールを片手に専門家の話を聞き、後半は立食スタイルで講師と直接質問や意見交換ができるというイベントで、ほぼ毎回抽選になっています。講師と参加者だけではなく、参加者同士も同じ興味のもとに集まった縁で、終了後も近隣のパブに流れるなど、人的ネットワークの形成も行われています。



(上) 2009年の「三鷹の森 科学文化祭」では、三鷹市芸術文化センターでガリレオ工房のサイエンス・ライブショーが行われた

(右) 同祭人気イベント「みたか太陽系ウォーク・スタンプラリー」のマップとシートをまとめた冊子。開催期間中は、この冊子を持つ人を多く見かける

平成21年度からは、国立天文台と三鷹市と協力して「三鷹の森 科学文化祭」を実施しています。市内での移動科学館事業としてモバイルプラネタリウムの派遣や、国立天文台が開発した天文シミュレーションソフト「mitaka」を用いて、教室に宇宙を投影して宇宙や天文への興味を促す事業を展開しました。また三鷹市内を太陽系に見立て、そのスケール感を感じてもらう「みたか太陽系ウォーク・スタンプラリー」も行っています。このイベントでは市内の商店や事業者の協力もあり、スタンプを集めることにより景品と交換できることから、参加拠点数は200を超え、2,000人以上の参加者が市内をスタンプラリーするようになりました。

「知」の機会を活かすeラーニング

eラーニング支援事業は、在宅での受講など、多様な学びの形態を支援するもので、現在は、一部の講座の補講として活用しています。

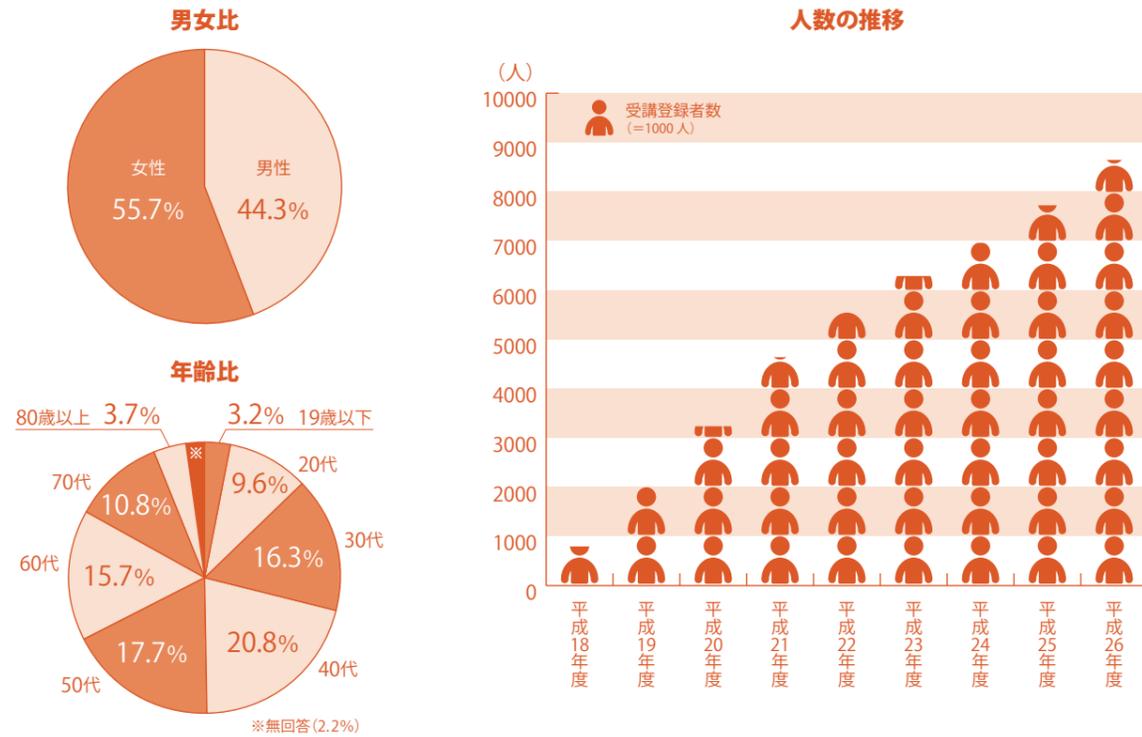


データで見るネット大

用語解説

受講登録者数：ネット大を利用するための受講登録（初期登録）を行った人の数
 講座申込者数：受講登録後に講座の申し込みを行った人の数
 受講者数：実際に講座を受講した人の数

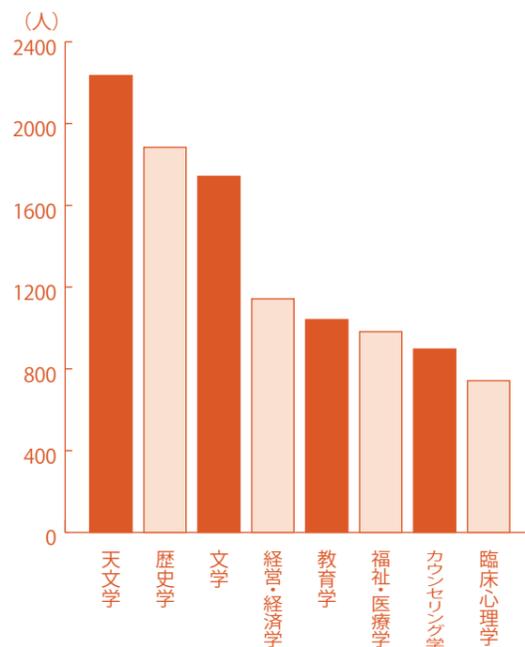
受講登録者の基本データ（平成18年度から26年度）



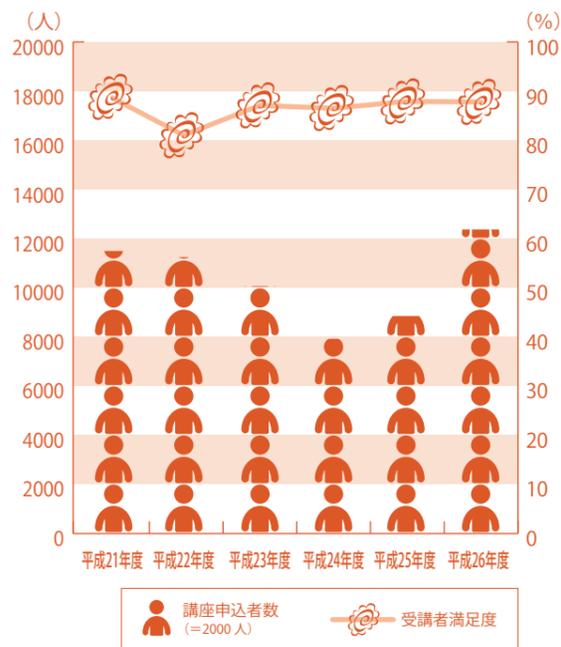
主な講座の受講者数（平成21年度から26年度）

主な講座		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
太宰を読む百夜百冊	コマ数	22	20	21	11	2	1
	受講者	627	552	444	344	139	62
アストロノミー・パブ	コマ数	11	10	12	11	11	11
	受講者	344	294	363	279	289	306
科学宅配塾	コマ数	6	11	11	11	11	11
	受講者	126	235	334	269	441	490
数学はこんなに面白い!	コマ数	3	7	11	12	12	12
	受講者	52	189	356	425	480	468
これからの生き方を考える	コマ数	12	29	26	23	25	20
	受講者	136	307	388	373	511	324
キャリア・カウンセリング	コマ数	21	14	12	12	12	12
	受講者	117	66	55	72	56	68
算数の教え方教室	コマ数	16	16	16	16	10	-
	受講者	319	280	220	205	132	-
星空案内のための天文講座	コマ数	8	-	8	-	8	9
	受講者	405	-	385	-	375	458

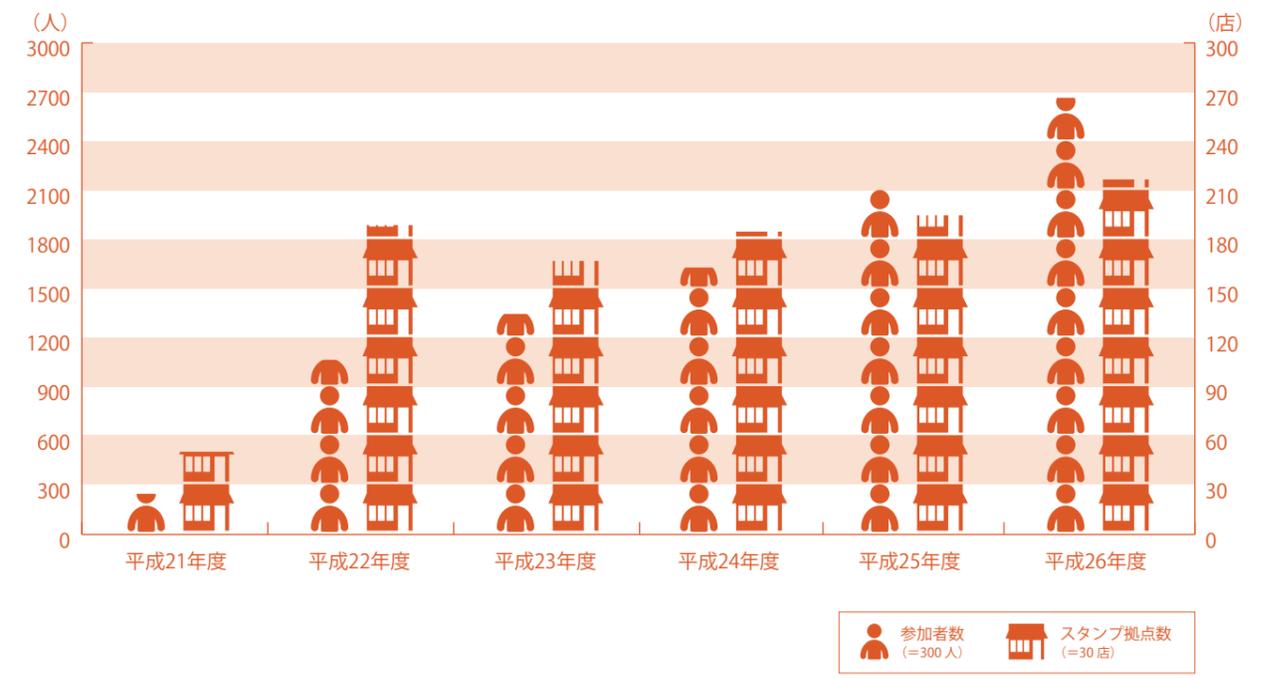
受講登録者の関心が高い分野（平成18年度から26年度）



講座申込者数及び受講者満足度の推移（平成21年度から26年度）



太陽系ウォークスタンプラリーの参加者数とスタンプ拠点数の推移（平成21年度から26年度）



ネット大の沿革

平成15年 (2003)

- 9月 「あすのまち・三鷹」推進協議会のプロジェクトの一環として、三鷹ネットワーク大学・大学院(仮称)検討委員会(委員長:清成忠男法政大学総長=当時)発足
- 9月 検討委員会より、三鷹市に対し、「ネットワーク大学」設置に向けた提言書を提出

平成16年 (2004)

- 4月 三鷹ネットワーク大学(仮称)開設協議会(会長:清成忠男法政大学総長=当時)を設置
- 6月 プレ開講講座開始~地域ケア連続講座、天文学連続講座、「SOHOベンチャーカレッジ」など開催

平成17年 (2005)

- 3月 第3回開設協議会で14の教育・研究機関と三鷹市が基本協定を締結
- 5月 「三鷹ネットワーク大学推進機構」(理事長:清成忠男法政大学学事顧問=当時)を設立
特定非営利活動法人(NPO法人)認証を東京都へ申請
- 6月 「三鷹ネットワーク大学条例」が三鷹市議会で可決
- 7月 経済産業省からの受託事業「クリエイティブ・キャリア・プログラム(CCP)」を実施

平成18年 (2006)

- 9月 三鷹ネットワーク大学開設
「天文学・パブ」、「高齢者福祉研究」などを開催
- 10月 NPO法人三鷹ネットワーク大学推進機構が公の施設「三鷹ネットワーク大学」の指定管理者に指定(平成17年10月~27年9月)
- 4月 ホームページを開設
- 5月 「民学産公」協働研究事業を開始
- 8月 「IPv6マルチキャストコンテンツ配信に関する共同実験」を実施
「教師力養成講座」を開催
- 10月 講座運営支援システム運用開始
インターネットでの受講者登録・講座受付を開始






講座概要をまとめた特集秋号(平成18年発行)

平成19年 (2007)

- 2月 「ICT三鷹セミナー」(総務省関東総合通信局主催)を開催
- 4月 無料起業相談を開始
東京女子大学が機構の正会員に加入

平成20年 (2008)

- 7月 「星のソムリエみたか・星空案内人養成講座」開催
三鷹市職員研修「チャレンジ選択研修」を受託
内閣府の地域再生計画「科学技術と科学文化を活かしたまちづくり・ひとづくりプロジェクト」を開始
- 10月 国立天文台科学文化形成ユニット「科学プロデューサー養成コース」を開催
- 3月 「SOHO CITY みたか構想の見直しと推進研究会」を開催
- 9月 「三鷹の森アニメフェスタ インディーズアニメフェスタ」を受託
「太宰を読む百夜百冊」を開催
- 10月 ユビキタス・コミュニティ推進有識者会議を開催
東京都「学校支援地域本部事業」を開始

平成21年 (2009)

- 11月 経済産業省の産学連携人材育成事業「次世代グローバル経営者育成プログラム開発プロジェクト」の実施(平成20~22年)
eラーニング事業「星空案内のための天文講座」配信実験を実施
- 12月 三鷹市と「三鷹まちづくり総合研究所」の共同設置に関する協定締結(所長:清原市長)、同研究所に「第4次基本計画と市民参加のあり方に関する研究会」設置
- 7月 市制施行60周年記念イベント「三鷹の森 科学文化祭」を三鷹市と共催
- 8月 「みたか太陽系ウォーク」を開催
- 9月 「みたか身の丈起業塾プロジェクト」(内閣府の地域社会雇用創造事業)を開催
- 4月 三鷹市、三鷹市教育委員会と「三鷹教育・子育て研究所」の共同設置に関する協定締結(所長:貝ノ瀬教育長)、同研究所に「三鷹市教育ビジョンの見直しに関する研究会」設置

平成23年 (2011)

- 10月 東日本大震災が発生~いくつかの講座を中止・延期
- 3月 三鷹まちづくり総合研究所「サステナブル都市三鷹研究会」設置
- 6月 三鷹ネットワーク大学開設5周年記念事業を開催(シンボルマーク表彰式・鼎談・講演会)
- 9月 「科学キッズフェス」(5市共同事業 多摩・島しょ広域連携活動)を開催
「三鷹の未来を見つめる視点~第4次基本計画策定に向けて」を開催
東京都の新しい公共支援事業で「三鷹まちなか協働サロン事業」を実施

平成24年 (2012)

- 10月 三鷹まちづくり総合研究所「オープンソース・ソフトウェアを活用した地域活性化に向けた研究会」の設置
- 6月 三鷹教育・子育て研究所「コミュニティ・スクール研究会」の設置
- 7月 三鷹まちづくり総合研究所「コミュニティ創生研究会」設置

平成25年 (2013)

- 8月 「三鷹の森 科学文化祭」の実施にあたり、国立天文台・三鷹市との間で協定を締結



杏林大学・地(知)の拠点講演会の様子

平成26年 (2014)

- 11月 三鷹まちづくり総合研究所「持続可能な都市経営と基本計画改定等の将来課題に関する研究会」の設置
- 2月 杏林大学・地(知)の拠点整備事業と連携して公開講演会等を開催

平成27年 (2015)

- 10月 「三鷹ネットワーク大学」100回目を開催
- 5月 機構が公の施設「三鷹ネットワーク大学」の指定管理者に再指定(平成27年10月~37年3月)
- 7月 成蹊大学が機構の正会員に加入
- 10月 三鷹ネットワーク大学開設10周年を迎える



特設サイトに詳しい年表が掲載されています。
<http://www.mitaka-univ.org/10th/>

歴代の役員

役職	正会員名	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
理事長		●清成忠男										
副理事長	杏林大学	●松田博青										
副理事長	国際基督教大学	●鈴木典比古							●日比谷潤子 (H24.5.25 ~)			
副理事長	ルーテル学院大学	●市川一宏										
副理事長	三鷹市	●河村 孝									(~ H27.2.5)	●内田 治 (H27.7.1 ~)
理事	アジア・アフリカ文化財団	●菊地 弘								●篠原昭雄 (H25.6.1 ~)		
理事	亜細亜大学	●池島政広	●小川春男 (H18.10.13 ~)						●池島政広 (H24.10.1 ~)			
理事	国立天文台	●海部宣男	●観山正見 (H18.5.23 ~)						●林 正彦 (H24.5.25 ~)			
理事	首都大学東京						●原島文雄 (H22.5.28 ~)					●上野 淳 (H27.5.28 ~)
理事	成蹊大学											●亀嶋庸一 (H27.6.1 ~)
理事	電気通信大学	●益田隆司			●梶谷 誠 (H20.5.23 ~)							●福田 喬 (H26.5.22 ~)
理事	東京学芸大学						●村松泰子 (H22.5.28 ~)					●出口利定 (H26.5.22 ~)
理事	東京工科大学	●相磯秀夫			●軽部征夫 (H20.6.1 ~)							
理事	東京女子大学				●湊 晶子 (H20.5.23 ~)		●真田雅子 (H22.5.28 ~)					●小野祥子 (H26.5.22 ~)
理事	東京農工大学	●小畑秀文						●松永 是 (H23.5.27 ~)				
理事	日商簿記三鷹福祉専門学校	●細谷秋男										
理事	日本獣医生命科学大学						●池本卯典 (H22.5.28 ~)					
理事	日本女子体育大学	●永島惇正			●高橋和之 (H20.5.23 ~)			●永島惇正 (H23.5.27 ~)				●石崎朔子 (H26.5.22 ~)
理事	法政大学	●平林千牧			●増田壽男 (H20.5.23 ~)							●田中優子 (H26.5.22 ~)
理事	明治大学	●納谷廣美							●福宮賢一 (H24.5.25 ~)			
理事	立教大学	●押見輝男	●大橋英五 (H18.5.26 ~)				●吉岡知哉 (H22.5.28 ~)					
理事		●正満たつる子										
理事		●佐藤文典										
理事		●前田隆正										
理事		●貝ノ瀬滋							●高部明夫 (H24.10.16 ~)			
理事		●武田秀己		●城所吉次 (H19.5.25 ~)			●竹内富士夫 (H21.5.22 ~)	●内田 治 (H23.5.27 ~)				●土屋 宏 (H26.5.22 ~)
常務理事								●武田秀己 (H23.6.1 ~)	●山口亮三 (H25.6.1 ~)			
監事		●杉山宗雄					●星 雅典 (H21.6.1 ~)					
監事		●伊藤 博										●村山圭一郎 (H27.6.1 ~)

※ 設立時の役員の任期は、平成 17 年 5 月 24 日から

